

# I 調査結果の概要

# 1 素材需給の動向

## (1) 素材の需要

平成18年の素材の需要量（＝供給量）は2,944万1千m<sup>3</sup>で、前年に比べ40万m<sup>3</sup>（1.4%）増加した。

これを需要部門別にみると、「製材用」は2,034万2千m<sup>3</sup>で、諸外国の製材用素材の需要増により日本への輸出が減少したこと等から前年に比べ19万8千m<sup>3</sup>（1.0%）減少した。

一方、「合板用」は518万3千m<sup>3</sup>で、合板加工技術の向上により、国産針葉樹合板の利用が高まったこと、「木材チップ用」は391万6千m<sup>3</sup>で、紙及び製紙パルプの生産量が増加したこと等から前年に比べそれぞれ54万7千m<sup>3</sup>（11.8%）、5万1千m<sup>3</sup>（1.3%）増加した。

この結果、需要部門別の構成割合は、「製材用」が69.1%、「合板用」が17.6%、「木材チップ用」が13.3%となった。（表1、図1）

表1 需要部門別素材需要量

単位：千m <sup>3</sup>				
区分	計	製材用	合板用	木材チップ用
全国	29 441	20 342	5 183	3 916
対前年比（%）	101.4	99.0	111.8	101.3
構成比（%）	100.0	69.1	17.6	13.3

## (2) 素材の供給

素材の供給量（＝需要量）は、国産材が1,660万9千m<sup>3</sup>で前年に比べ44万3千m<sup>3</sup>（2.7%）増加した。これは、主に合板用原料として国産のすぎの利用が増加したこと等による。

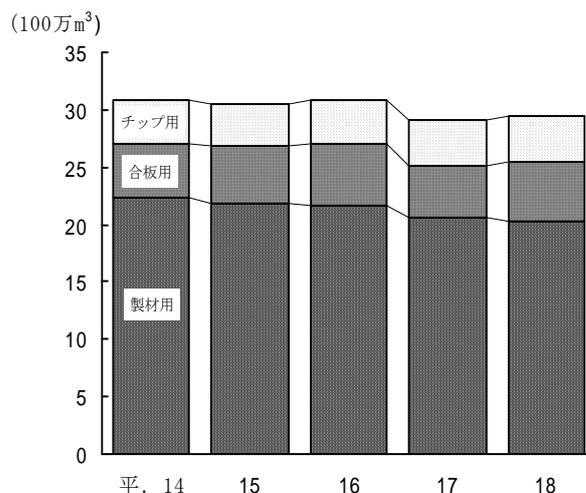
また、外材は1,283万2千m<sup>3</sup>で南洋材、米材等が減少したことから前年に比べ4万3千m<sup>3</sup>（0.3%）減少した。これは、主に原油高により輸送コストが高騰したこと、諸外国において需要が増加し入手が困難になったこと等による。

この結果、素材供給量に占める国産材の割合は56.4%となり、前年を0.7ポイント上回った。（表2及び3、図2）

表2 国産材、外材別素材供給量

単位：千m <sup>3</sup>			
区分	計	国産材	外材
平成18年	29 441	16 609	12 832
対前年比（%）	101.4	102.7	99.7
構成比（%）	100.0	56.4	43.6

図1 素材需要量の推移



(参考) 関連統計量

区分	1) 新設住宅着工戸数		2) 紙・板紙生産量	
	うち、 木造住宅			製紙パルプ 生産量
	千戸	千戸	千t	千t
平成18年	1 290	559	31 108	10 798
対前年比（%）	104.4	102.9	100.5	100.4

資料：1) 国土交通省『建築着工統計』

2) 経済産業省『紙・印刷・プラスチック・ゴム製品統計年報』

図2 材種別素材供給量の推移

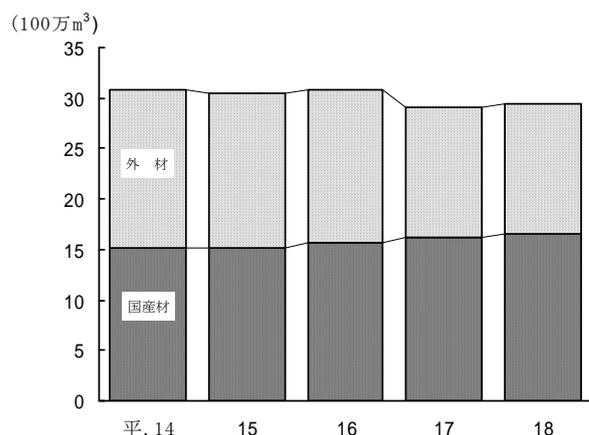


表3 需要部門別、材種別素材供給量

単位：千m<sup>3</sup>

区分	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材		米材	北洋材	ニュージ- ランド材	その他
平成18年												
計	29 441	16 609	14 017	2 592	12 832	1 219	841	5 274	5 097	954	288	
製材用	20 342	11 645	11 316	329	8 697	200	28	5 244	2 115	870	268	
合板用	5 183	1 144	1 126	18	4 039	1 018	812	26	2 897	83	15	
木材チップ用	3 916	3 820	1 575	2 245	96	1	1	4	85	1	5	
対前年比(%)												
計	101.4	102.7	102.4	104.9	99.7	88.3	99.1	98.9	105.3	98.8	80.9	
製材用	99.0	100.6	99.7	150.2	97.0	75.5	57.1	99.5	93.5	104.2	80.5	
合板用	111.8	132.6	135.2	60.0	107.1	91.9	101.5	200.0	115.6	66.9	68.2	
木材チップ用	101.3	102.4	104.3	101.0	72.2	14.3	...	8.5	119.7	14.3	500.0	
構成比(%)												
計	100.0	56.4	47.6	8.8	43.6	4.1	2.9	17.9	17.3	3.2	1.0	
製材用	100.0	57.2	55.6	1.6	42.8	1.0	0.1	25.8	10.4	4.3	1.3	
合板用	100.0	22.1	21.7	0.3	77.9	19.6	15.7	0.5	55.9	1.6	0.3	
木材チップ用	100.0	97.5	40.2	57.3	2.5	0.0	0.0	0.1	2.2	0.0	0.1	

ア 国産材の供給

国産材の供給量(=素材生産量)を針葉樹、広葉樹別にみると、針葉樹は1,401万7千m<sup>3</sup>で、「合板用」及び「木材チップ用」が増加したことから、また、広葉樹は259万2千m<sup>3</sup>で、「製材用」及び「木材チップ用」が増加したことから、前年に比べそれぞれ32万2千m<sup>3</sup>(2.4%)、12万1千m<sup>3</sup>(4.9%)増加した。

これを樹種別にみると、「ひのき」は前年に比べ1.1%減少したものの、主に合板用の生産量が増加したことから「すぎ」、「あかまつ・くろまつ」、「からまつ」は前年に比べそれぞれ3.9%、3.6%、1.8%増加した。(表3及び4、図3)

図3 樹種別素材生産量の推移

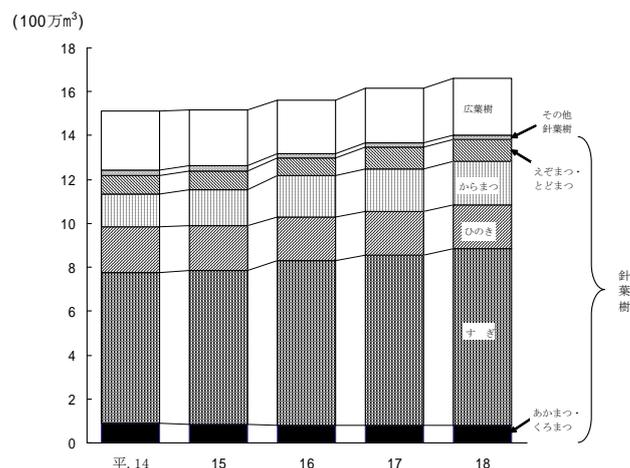


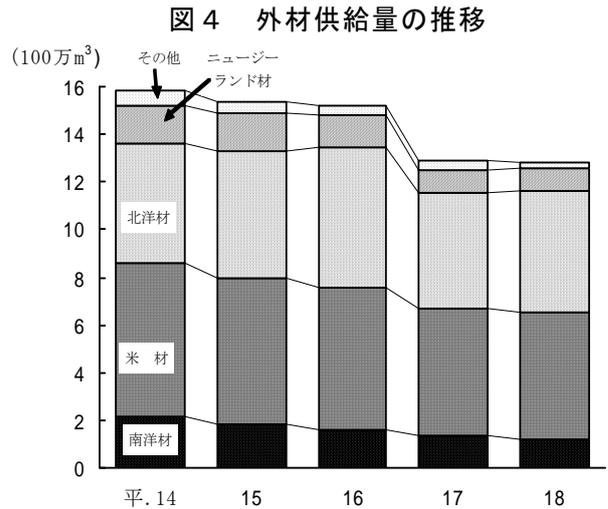
表4 需要部門別、樹種別素材生産量

単位：千m<sup>3</sup>

区分	計	針葉樹							広葉樹
		小計	あかまつ・くろまつ	すぎ	ひのき	からまつ	えぞまつ・とどまつ	その他	
平成18年									
計	16 609	14 017	811	8 059	1 991	1 944	1 008	204	2 592
製材用	11 645	11 316	290	6 753	1 929	1 392	851	101	329
合板用	1 144	1 126	98	803	0	217	5	3	18
木材チップ用	3 820	1 575	423	503	62	335	152	100	2 245
対前年比(%)									
計	102.7	102.4	103.6	103.9	98.9	101.8	100.8	87.9	104.9
製材用	100.6	99.7	89.5	100.2	98.7	101.1	101.3	84.9	150.2
合板用	132.6	135.2	132.4	148.2	...	103.3	500.0	50.0	60.0
木材チップ用	102.4	104.3	109.9	105.5	105.1	103.7	95.6	93.5	101.0
構成比(%)									
計	100.0	84.4	4.9	48.5	12.0	11.7	6.1	1.2	15.6
製材用	100.0	97.2	2.5	58.0	16.6	12.0	7.3	0.9	2.8
合板用	100.0	98.4	8.6	70.2	0.0	19.0	0.4	0.3	1.6
木材チップ用	100.0	41.2	11.1	13.2	1.6	8.8	4.0	2.6	58.8

イ 外材の供給

外材の供給量を産地材別にみると、北洋材は509万7千m<sup>3</sup>で、「合板用」が増加したことから25万7千m<sup>3</sup>（5.3%）増加し、米材は527万4千m<sup>3</sup>、南洋材は121万9千m<sup>3</sup>、ニュージーランド材は95万4千m<sup>3</sup>で、前年に比べそれぞれ1.1%、11.7%、1.2%減少した。（表3、図4）



2 木材産業の動向

(1) 製材業

ア 製材工場数及び製材用動力の出力数

平成18年12月31日現在の製材工場数は8,482工場で前年に比べ529工場（5.9%）減少した。

製材用動力の総出力数は81万9,877.6kWで、前年に比べ3万7,512.9kW（4.4%）減少したものの、1工場当たりの出力数は96.7kWで、前年に比べ1.6kW（1.7%）増加した。（表5）

表5 製材工場数、製材用動力の出力数

（平成18年12月31日現在）

出力階層		平成18年	対前年比	構成比
工場数	計	8 482	94.1	100.0
	7.5～22.5kW未満	862	95.9	10.2
	22.5～37.5	1 814	94.5	21.4
	37.5～75.0	3 111	92.3	36.7
	75.0～150.0	1 461	94.1	17.2
	150.0～300.0	754	96.4	8.9
	300.0kW以上	480	98.4	5.7
総出力数		819 877.6	95.6	-
1工場当たり出力数		96.7	101.7	-

イ 従業員数

平成18年12月31日現在で操業している工場の従業員数は4万5,389人で、前年に比べ3,770人（7.7%）減少し、1工場あたりの従業員数は5.4人で、前年に比べ0.1人減少した。（表6）

表6 従業者数規模別製材工場数及び従業者数（12月操業）

単位：工場

年次	従業者数規模別製材工場数（12月操業）							従業者数 (12月31日現在)
	計	4人以下	5～9	10～19	20～29	30～49	50人以上	
平成18年	8 421	5 251	2 113	781	164	75	37	45 389
対前年比（%）	93.7	95.7	90.8	88.5	91.1	93.8	105.7	92.3
構成比（%）	100.0	62.4	25.1	9.3	1.9	0.9	0.4	1) 5.4

注：1) は、1工場当たりの従業者数である。

ウ 製材用素材消費量

平成18年の製材用素材消費量は2,030万5千m<sup>3</sup>で、前年に比べ28万1千m<sup>3</sup>（1.4%）減少した。

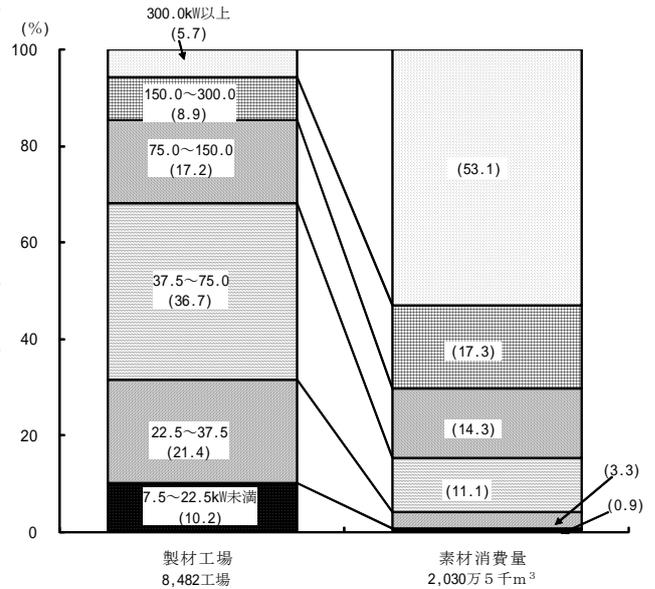
これを製材用動力の出力階層別にみると、300.0kW以上の階層を除く全ての階層で減少した。

なお、1工場当たりの素材消費量は2,394m<sup>3</sup>で、前年に比べ109m<sup>3</sup>（4.8%）増加した。（表7、図5）

表7 製材用動力の出力階層別素材消費量

出力階層	消費量	対前年比	構成比
	千m <sup>3</sup>	%	%
計	20 305	98.6	100.0
7.5 ~ 22.5kW 未満	179	94.7	0.9
22.5 ~ 37.5	671	92.7	3.3
37.5 ~ 75.0	2 264	89.2	11.1
75.0 ~ 150.0	2 911	90.0	14.3
150.0 ~ 300.0	3 507	96.5	17.3
300.0kW 以上	10 773	104.9	53.1
1工場当たり消費量	2 394	104.8	-

図5 製材工場数及び素材消費量の構成割合（出力階層別）



エ 製材用素材入荷量

(ア) 平成18年の製材用素材入荷量は2,034万2千m<sup>3</sup>で、前年に比べて19万8千m<sup>3</sup>（1.0%）減少した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は1,164万5千m<sup>3</sup>で前年に比べて7万4千m<sup>3</sup>（0.6%）増加し、外材の入荷量は869万7千m<sup>3</sup>で前年に比べて27万2千m<sup>3</sup>（3.0%）減少した。

この結果、製材用素材入荷量に占める国産材の割合は57.2%で、前年（56.3%）を0.9ポイント上回った。（表8、図6）

図6 製材用素材の入荷量の推移

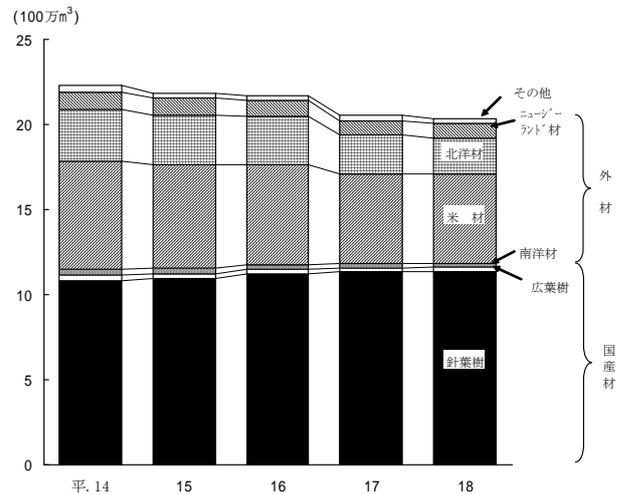


表8 材種別製材用素材の入荷量

単位：千m<sup>3</sup>

	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
全 国	20 342	11 645	11 318	327	8 697	200	28	5 244	2 115	870	268
対前年比 (%)	99.0	100.6	99.7	149.3	97.0	75.5	57.1	99.5	93.5	104.2	80.5
構成比 (%)	100.0	57.2	55.6	1.6	42.8	1.0	0.1	25.8	10.4	4.3	1.3

(イ) 素材の入荷があった製材工場は8,433工場で、前年に比べ522工場（5.8%）減少した。  
 これを入荷類型別の工場数でみると、国産材のみは4,897工場、国産材と外材は2,670工場、外材のみは866工場で、前年に比べそれぞれ81工場（1.6%）、347工場（11.5%）、94工場（9.8%）減少した。

入荷量でみると、国産材のみは968万4千 $m^3$ 、外材のみは668万5千 $m^3$ で、前年に比べそれぞれ2万 $m^3$ （0.2%）、31万2千 $m^3$ （4.5%）減少した。一方、国産材と外材は397万3千 $m^3$ で、前年に比べ13万4千 $m^3$ （3.5%）増加した。

また、製材用動力の出力階層別にみると、300.0kw以上の工場が入荷量の全体の約5割を占めている。（表9）

表9 製材用動力の出力階層別、入荷類型別製材工場数及び入荷量

出力階層	計		国産材のみ		国産材と外材		外材のみ	
	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量	工場数	入荷量
平成18年								
計	8 433	20 342	4 897	9 684	2 670	3 973	866	6 685
7.5～22.5kw	857	182	641	142	164	34	52	6
22.5～37.5	1 794	677	1 167	422	534	215	93	40
37.5～75.0	3 098	2 271	1 731	1 251	1 075	740	292	280
75.0～150.0	1 454	2 886	711	1 413	531	862	212	611
150.0～300.0	751	3 519	384	1 856	253	976	114	687
300.0kw以上	479	10 807	263	4 600	113	1 146	103	5 061
対前年比(%)								
計	94.2	99.0	98.4	99.8	88.5	103.5	90.2	95.5
7.5～22.5kw	95.9	96.8	101.4	119.3	78.5	58.6	98.1	54.5
22.5～37.5	94.2	92.2	98.0	91.5	86.1	92.7	100.0	97.6
37.5～75.0	92.6	89.9	96.3	87.2	86.6	92.6	95.7	95.6
75.0～150.0	94.1	89.4	99.9	94.3	91.7	88.9	83.5	80.5
150.0～300.0	96.3	97.0	99.0	93.1	98.4	114.2	84.4	88.1
300.0kw以上	98.2	105.6	102.3	109.6	101.8	123.9	85.8	99.0

注：工場数は、平成18年に製材用素材の入荷のあった工場数である。

オ 製材品出荷量

製材品出荷量は1,255万4千 $m^3$ で、前年に比べ27万1千 $m^3$ （2.1%）減少した。

出荷量を用途別にみると、土木建設用材及びその他用材以外の用途別は前年に比べ減少した。

また、人工乾燥材出荷量は231万9千 $m^3$ で、前年に比べ20万3千 $m^3$ （9.6%）増加した。（表10、図7）

図7 製材品出荷量の推移（用途別）

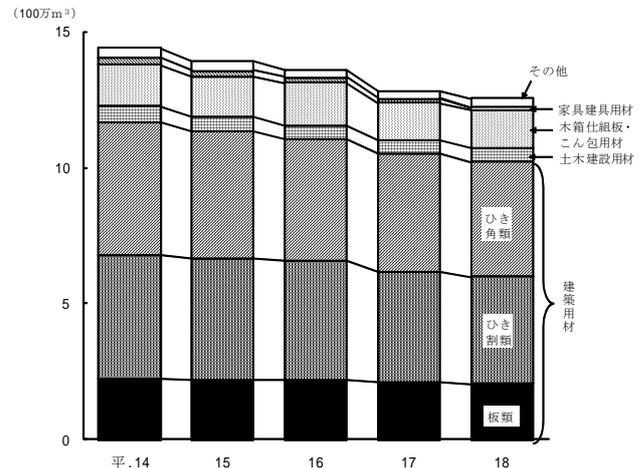


表10 製材品出荷量（用途別）

区分	計		建築用材				土木建設用材	木箱仕組板・こん包用材	家具・建具用材	その他用材
	うち、人工乾燥材	小計	板類	ひき割類	ひき角類					
全国	12 554	2 319	10 207	2 050	3 941	4 216	515	1 391	117	324
対前年比(%)	97.9	109.6	97.1	96.8	97.4	97.1	107.5	99.4	78.0	112.1
構成比(%)	100.0	18.5	81.3	16.3	31.4	33.6	4.1	11.1	0.9	2.6

単位：千 $m^3$

## (2) 合単板製造業

### ア 合単板工場数及び従業者数

平成18年12月31日現在の合単板工場数は263工場で、前年に比べ8工場（3.0%）減少した。これは、特殊合板のみの工場が184工場で、前年に比べ8工場（4.2%）減少したことによる。従業者数は1万1,414人で前年に比べ463人（3.9%）減少した。また、1工場当たりの従業者数は43.4人で、前年に比べ0.4人減少した。（表11）

表11 工場類型別、従業者規模別合単板工場数及び従業者数（平成18年12月31日現在）

工場類型	従業者数規模別工場数								従業者数		1工場当たり 従業者数
	計		9人以下	10～49	50～99	100～199	200～299	300人以上	実数	対前年比	
	実数	対前年比									
	工場	%	工場	工場	工場	工場	工場	工場	人	%	人
計	263	97.0	105	95	29	2	6	6	11 414	96.1	43.4
単板のみ	23	100.0	6	13	3	-	1	-	721	103.9	31.3
普通合板のみ	45	100.0	1	14	11	16	2	1	5 619	104.4	100.3
普通合板と特殊合板	11	100.0	2	2	3	1	1	2			
特殊合板のみ	184	95.8	96	66	12	5	2	3	5 074	87.5	27.6

注：1) は、「普通合板のみ」と「普通合板と特殊合板」の合計を表示している。

### イ 単板製造用素材入荷量

平成18年の単板製造用素材の入荷量は518万3千m<sup>3</sup>で、前年に比べて54万7千m<sup>3</sup>（11.8%）増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材は114万4千m<sup>3</sup>で、合板原料としての国産針葉樹の利用が増加したこと等から前年に比べて28万1千m<sup>3</sup>（32.6%）増加した。外材は403万9千m<sup>3</sup>で、前年に比べて26万6千m<sup>3</sup>（7.1%）増加した。

この結果、単板製材用素材入荷量に占める国産材の割合は22.1%で、前年（18.6%）を3.5ポイント上回った。（表12、図8）

図8 単板製造用素材の入荷量の推移

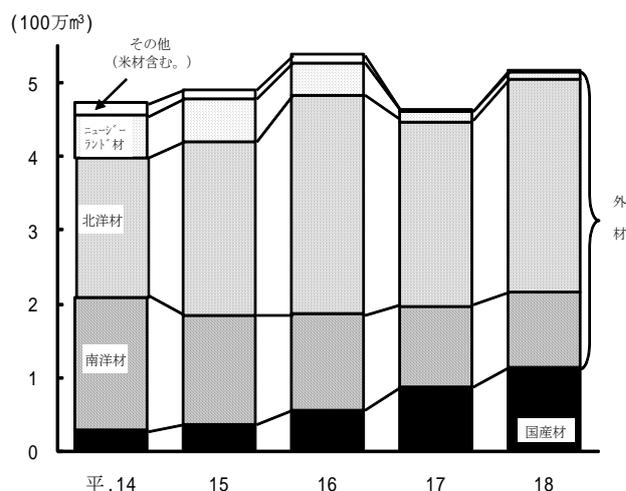


表12 材種別単板製造用素材の入荷量

単位：千m<sup>3</sup>

区分	計	国産材			外材							
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	針葉樹	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージーランド材	その他
全国	5 183	1 144	1 126	18	4 039	2 980	1 018	812	26	2 897	83	15
対前年比 (%)	111.8	132.6	135.2	60.0	107.1	113.6	91.9	101.5	200.0	115.6	66.9	68.2
構成比 (%)	100.0	22.1	21.7	0.3	77.9	57.5	19.6	15.7	0.5	55.9	1.6	0.3

ウ 普通合板生産量

平成18年の普通合板生産量は331万4千 $m^3$ で、前年に比べ10万2千 $m^3$ （3.2%）増加した。

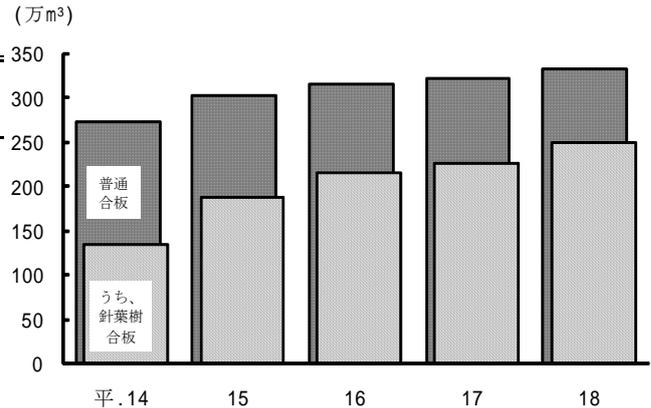
これを厚さ別にみると、3mm未満は7万 $m^3$ で、前年並みとなった。一方、3mm～6mm未満は18万1千 $m^3$ 、6mm～12mm未満は48万6千 $m^3$ 、12mm以上は257万7千 $m^3$ で、前年に比べそれぞれ1万4千 $m^3$ （8.4%）、2万9千 $m^3$ （6.3%）、5万9千 $m^3$ （2.3%）増加した。

また、生産量のうち、針葉樹合板生産量は248万4千 $m^3$ で、前年に比べ23万5千 $m^3$ （10.4%）増加した。この結果、普通合板生産量に占める針葉樹合板生産量の割合は75.0%で、前年（70.0%）を5.0ポイント上回った。（表13、図9）

表13 普通合板生産量

区 分	平成18年	対前年比	構成比
	千 $m^3$	%	%
普通合板生産量	3 314	103.2	100.0
3 mm 未 満	70	100.0	2.1
3 ～ 6 mm	181	108.4	5.5
6 ～ 12 mm	486	106.3	14.7
12 mm 以 上	2 577	102.3	77.8
うち、針葉樹合板	2 484	110.4	75.0

図9 普通合板生産量の推移



エ 特殊合板生産量

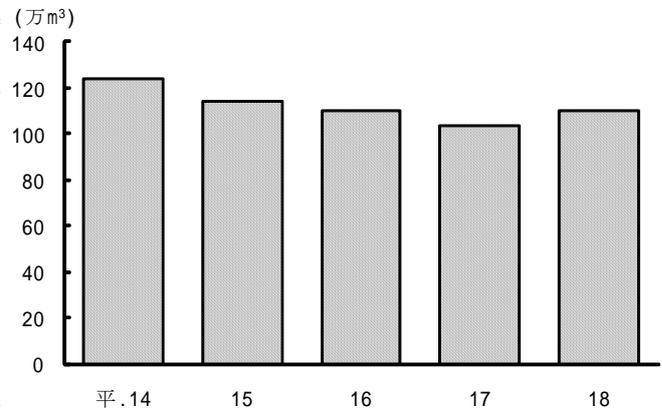
平成18年の特殊合板生産量は110万2千 $m^3$ で、前年に比べ6万5千 $m^3$ （6.3%）増加した。

これを種類別にみると、プリント合板は15万7千 $m^3$ 、その他の合板は78万6千 $m^3$ で、前年に比べそれぞれ2万1千 $m^3$ （15.4%）、11万6千 $m^3$ （17.3%）増加した。一方、オーバーレイ合板は4万6千 $m^3$ 、塗装合板は5万9千 $m^3$ 、天然木化粧合板は5万4千 $m^3$ で、前年に比べそれぞれ5千 $m^3$ （9.8%）、4万7千 $m^3$ （44.3%）、2万 $m^3$ （27.0%）減少した。（表14、図10）

表14 特殊合板生産量

区 分	平成18年	対前年比	構成比
	千 $m^3$	%	%
特殊合板生産量	1 102	106.3	100.0
オーバーレイ合板	46	90.2	4.2
プリント合板	157	115.4	14.2
塗装合板	59	55.7	5.4
天然木化粧合板	54	73.0	4.9
その他の合板	786	117.3	71.3
うち、木質複合床板	542	126.9	49.2

図10 特殊合板生産量の推移



### (3) 木材チップ製造業

#### ア 木材チップ工場数及び従業者数

平成18年12月31日現在の木材チップ工場数は1,971工場で、前年に比べ69工場（3.4%）減少した。

これを専門・兼営区別にみると、「木材チップ専門工場」は368工場で紙・製紙パルプの需要の増加や木質ボード生産の増加による新設や休業工場の再開があったものの、小規模工場の廃業から前年に比べ3工場（0.8%）減少し、「製材又は合板工場との兼営工場」は1,603工場で、前年に比べ66工場（4.0%）減少した。

木材チップ工場の従業者数は3,619人で、前年に比べ270人（6.9%）減少した。

また、1工場当たりの従業者数は1.8人で前年に比べて0.1人減少した。（表15）

表15 専門・兼営区分別、従業者数規模別木材チップ工場数及び従業者数  
（平成18年12月31日現在）

専門・兼営区分別	従業者数規模別工場数						従業者数		1工場当たり従業者数 人
	計		4人以下 工場	5～9 工場	10～19 工場	20人以上 工場	実数 人	対前年比 %	
	実数 工場	対前年比 %							
計	1 971	96.6	1 773	155	35	8	3 619	93.1	1.8
木材チップ専門工場	368	99.2	196	130	34	8	...	...	...
製材又は合板工場との兼営工場	1 603	96.0	1 577	25	1	-	...	...	...

注：従業者数については、「木材チップ専門工場」及び「製材又は合板工場との兼営工場」別に集計を行っていない。

#### イ 木材チップ用素材入荷量

平成18年の木材チップ用の素材入荷量は391万6千m<sup>3</sup>で、前年に比べ5万1千m<sup>3</sup>（1.3%）増加した。

これを国産材、外材別にみると、国産材の入荷量は382万m<sup>3</sup>で前年に比べ8万8千m<sup>3</sup>（2.4%）増加し、外材の入荷量は9万6千m<sup>3</sup>で前年に比べ3万7千m<sup>3</sup>（27.8%）減少した。（表16、図11）

図11 木材チップ用素材の入荷量の推移

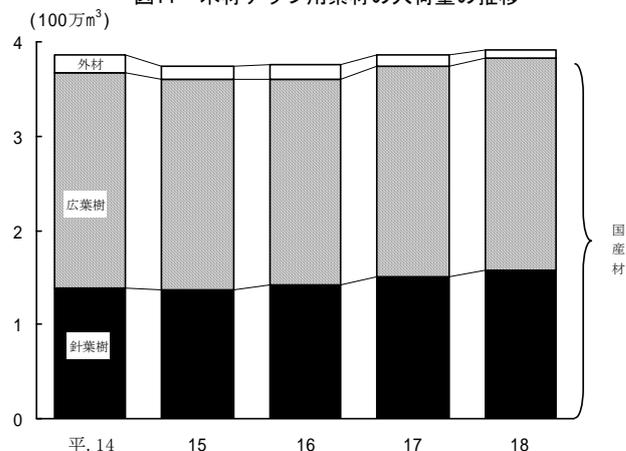


表16 材種別木材チップ製造用素材の入荷量

単位：千m<sup>3</sup>

	計	国産材			外材						
		小計	針葉樹	広葉樹	小計	南洋材	ラワン材	米材	北洋材	ニュージランド材	その他
全 国	3 916	3 820	1 575	2 245	96	1	1	4	85	1	5
対前年比 (%)	101.3	102.4	104.3	101.0	72.2	14.3	...	8.5	119.7	14.3	500.0
構成比 (%)	100.0	97.5	40.2	57.3	2.5	0.0	0.0	0.1	2.2	0.0	0.1

ウ 木材チップ生産量及び出荷量

平成18年の木材チップ生産量は589万9千tで、前年に比べ10万6千t（1.8%）減少した。

これを原材料別にみると、「工場残材」、「素材(原木)」は前年に比べそれぞれ4.0%、1.8%増加したものの、「解体材・廃材」、「林地残材」は前年に比べそれぞれ15.4%、1.5%減少した。

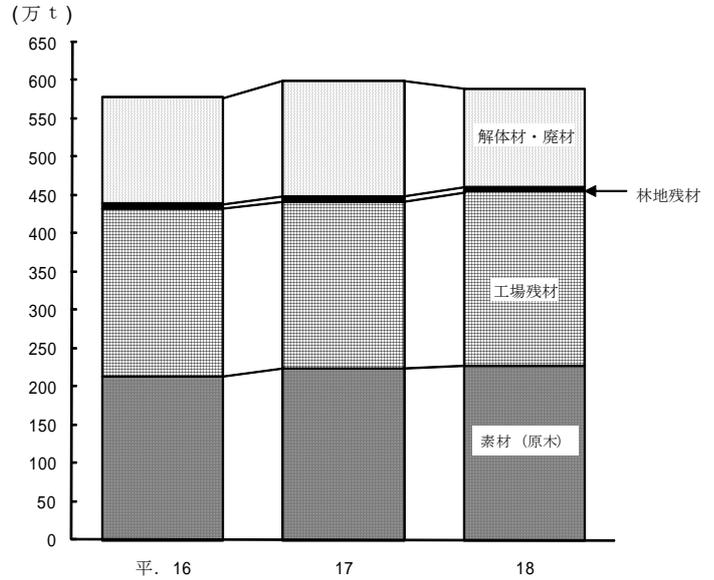
また、針葉樹・広葉樹別にみると、「針葉樹」は300万4千t、「広葉樹」は161万3千tで前年に比べそれぞれ1.8%、4.9%増加した。（表17、図12）

表17 木材チップ生産量

区 分	平成18年	対前年比	構成比
	千 t	%	%
木材チップ生産量 (原材料別)	5 899	98.2	100.0
素材(原木)	2 276	101.8	38.6
工場残材	2 275	104.0	38.6
林地残材	66	98.5	1.1
解体材・廃材	1 282	84.6	21.7
(針葉樹・広葉樹別)			
針葉樹	3 004	101.8	-
広葉樹	1 613	104.9	-

注：針葉樹・広葉樹別には解体材・廃材を含んでいない。

図12 木材チップ生産量の推移



注：平成16年から木材チップ生産量の単位を変更したため、平成15年以前は表章していない。

### 3 木材価格の動向

平成18年の木材価格の動向をみると、外材は原油価格の高騰による船運賃の値上がり等から上昇傾向となり、国産材も外材価格の影響から年の後半にかけて上昇傾向となった。

#### (1) 素材価格（丸太価格）（表18、図13）

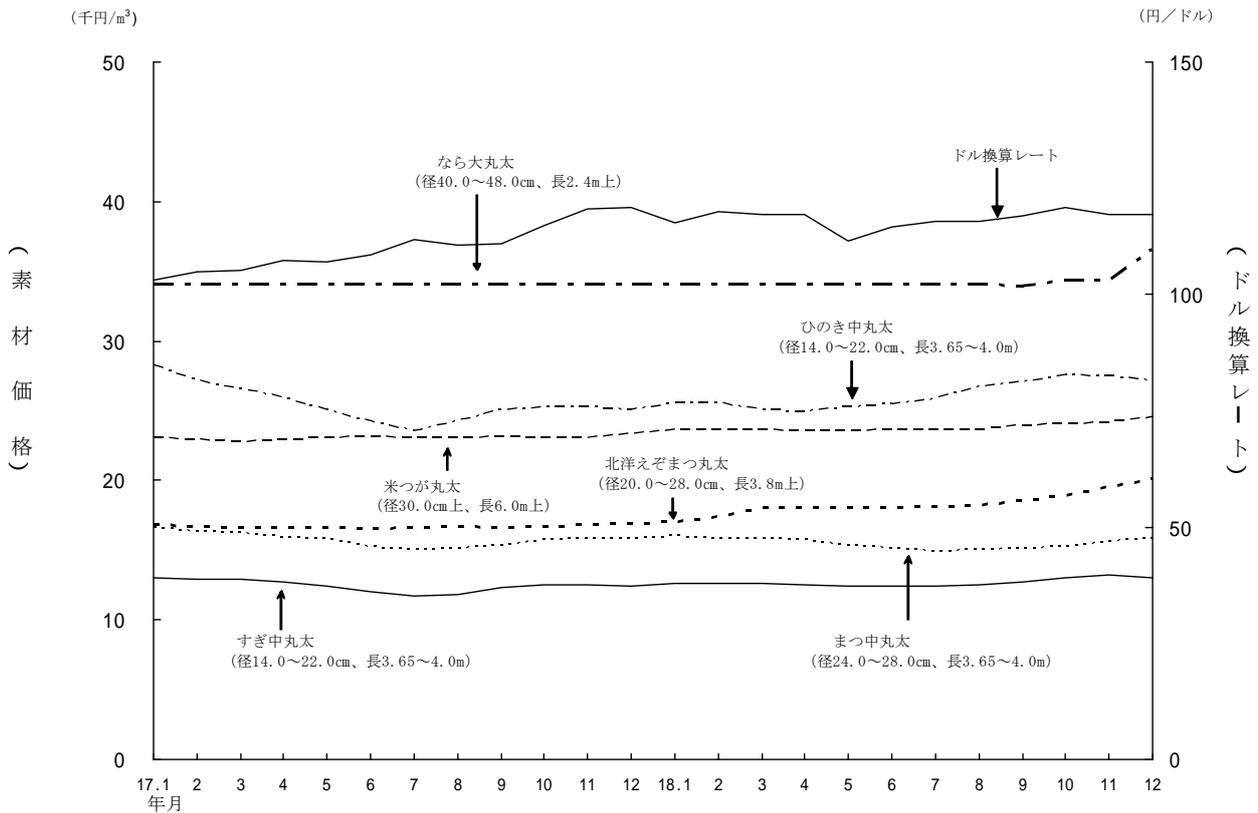
- ア 「まつ中丸太」（径24.0～28.0cm、長3.65～4.0m）は、年の前半は低下傾向で推移し、後半は持ち直したものの、年平均（1㎡当たり。以下同じ。）では1万5,000円で前年に比べ700円低下した。
- イ 「すぎ中丸太」（径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）は、年の後半にかけて上昇傾向で推移し、年平均では1万2,800円で前年に比べ400円上昇した。
- ウ 「ひのき中丸太」（径14.0～22.0cm、長3.65～4.0m）は、年の後半にかけて上昇傾向で推移し、年平均では2万6,500円で前年に比べ1,000円上昇した。
- エ 「なら大丸太」（径40.0～48.0cm、長2.4m上）は、年の前半は低下傾向で推移し、後半は持ち直したものの、年平均では2万6,300円で前年に比べ7,800円低下した。
- オ 「米つが丸太」（径30.0cm上、長6.0m上、No.3）は、年の後半にかけて上昇傾向で推移し、年平均では2万3,800円で前年に比べ800円上昇した。
- カ 「北洋えぞまつ丸太」（径20.0～28.0cm上、長3.8m上）は、年間を通して上昇傾向で推移し、年平均では1万9,200円で前年に比べ2,500円上昇した。

表18 素材価格

単位：1㎡当たり円

年次	まつ	すぎ	ひのき	なら	米つが	北洋えぞまつ
	中丸太	中丸太	中丸太	大丸太	丸太	丸太
	径 24.0～28.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 14.0～22.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 14.0～22.0 cm 長 3.65～4.0 m	径 40.0～48.0 cm 長 2.4 m 上	径 30.0 cm 上 長 6.0 m 上	径 20.0～28.0 cm 長 3.8 m 上
	込 み	込 み	込 み	込 み	No.3	込 み
平均価格						
平. 15	17 400	14 300	31 600	35 100	21 400	15 800
16	16 700	13 500	29 400	34 100	22 600	16 500
17	15 700	12 400	25 500	34 100	23 000	16 700
18	15 400	12 700	26 200	34 400	23 800	18 300
対前年差						
平. 15	200	300	100	3 400	300	400
16	700	800	2 200	1 000	1 200	700
17	1 000	1 100	3 900	0	400	200
18	300	300	700	300	800	1 600

図13 素材価格の推移



(2) 木材製品卸売価格 (表19、図14)

ア 製材品

- (ア) 「すぎ正角」 (厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m) は、年の後半に上昇傾向に転じ、年平均では4万2,300円で前年に比べ500円上昇した。
- (イ) 「ひのき正角」 (厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m) は、年の後半に上昇傾向に転じたものの、年平均では6万4,800円で前年に比べ2,400円低下した。
- (ウ) 「米つが正角」 (厚10.5cm、幅10.5cm、長3.0m) は、年間を通して上昇傾向で推移し、年平均では5万2,900円で前年に比べ1,700円上昇した。
- (エ) 「北洋えぞまつ板」 (径1.2~1.5cm、幅15.0cm、長3.65~4.0m) は、年間を通して上昇傾向で推移し、年平均では4万8,500円で前年に比べ2,700円上昇した。

イ 合板

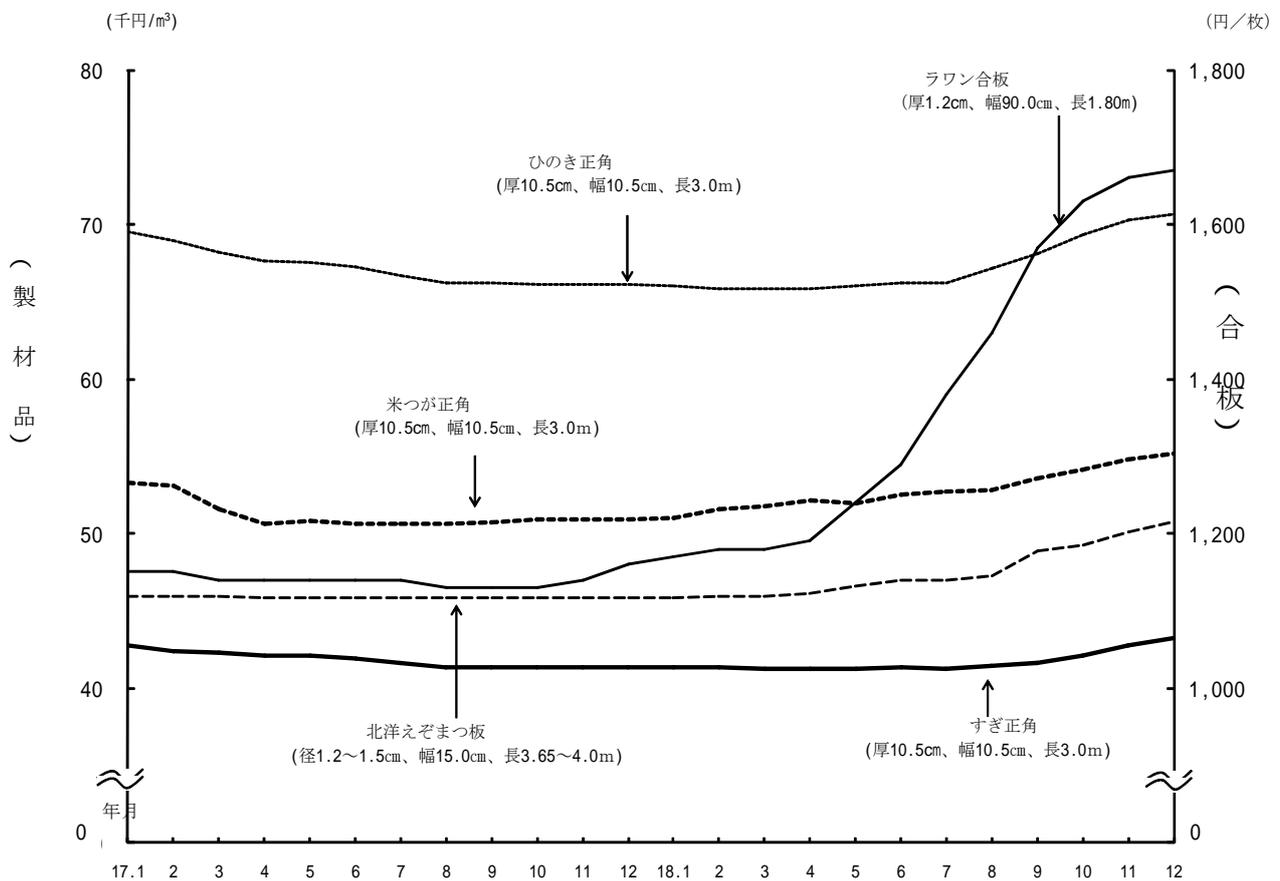
「ラワン合板」 (厚1.2cm、幅90.0cm、長1.80m) は、年間を通して上昇傾向で推移し、年平均では1,400円で前年に比べ260円上昇した。

表19 木材製品卸売価格

単位：1m<sup>3</sup>当たり円

年次	すぎ正角	ひのき正角	米つが正角	北洋えぞまつ板	ラワン合板 (1枚当たり)
	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	厚 10.5 cm 幅 10.5 cm 長 3.0 m	径 1.2~1.5 cm 幅 15.0 cm 長 3.65~4.0 m	厚 1.2 cm 幅 90.0 cm 長 1.80 m
	2 級	2 級	2 級	1 級	コンクリート型枠
平均価格					
平. 15	42 400	69 600	50 600	46 000	1 080
16	42 700	70 600	52 700	46 100	1 150
17	41 800	67 200	51 200	45 800	1 140
18	41 700	67 300	52 900	47 600	1 400
対前年差					
平. 15	400	500	1 500	500	50
16	300	1 000	2 100	100	70
17	900	3 400	1 500	300	10
18	100	100	1 700	1 800	260

図14 木材製品卸売価格の推移



(3) 木材チップ価格 (表20、図15)

木材チップの価格は、年の前半に上昇傾向で推移し、針葉樹は5,400円、広葉樹は9,000円で前年に比べそれぞれ200円、500円上昇した。

表20 木材チップ価格 (パルプ向け)

単位：1 m<sup>3</sup>当たり円

年次	針葉樹	広葉樹
平均価格		
平. 15	5 200	8 600
16	5 200	8 500
17	5 200	8 500
18	5 200	8 500
対前年差		
平. 15	100	300
16	0	100
17	0	0
18	0	0

図15 木材チップ価格の推移

